

学園だより

No53
令和2年11月

発行
広島県立広島学園
東広島市八本松町原 10844
電話 (082) 429-0351



ふれあい運動会

湯尻 めぐみ

広島学園では、毎年9月にふれあい運動会を行っています。運動会では、赤組白組に分かれて競技を行う他、寮ごとに応援合戦や長縄跳びで競います。その中でも、時間をかけて練習をしているのが応援合戦です。運動会近くになると、寮内で寮生達の練習の声が聞こえてきます。私が担当しているすみれ寮も、2年間応援合戦で一位を取っていることもあり、プレッシャーもある中、寮生達の頑張る声が聞こえてきました。

ふと、応援合戦が近くなった時に、元教員だった同僚との会話を思い出しました。昨年度、彼女は、「先生、運動会や文化祭って、生徒も楽しいけど、先生たちも協力するから楽しいですね。」と言っていました。私も、広島学園に赴任する前は教員をしていたので、教員時代の自分を振り返ってみました。確かに、生徒会担当の生徒と開会式のリハーサル

を個別に練習したり、吹奏楽部での演奏の準備や譜読み、学級担任としてこっそり学級対抗種目の作戦会議等をしていたりと忙しかったのですが、楽しい思い出しか出てきませんでした。また、広島学園での二年間の自分を振り返ると、寮別発表で、積極的に児童のために行動できていなかったように思えてきました。また、今年度の応援合戦について寮長と話していると、「応援合戦を担当している職員はいるけど、職員みんな応援合戦を創っていき、寮生たちがやり切ったと思えるといいよね。」と言っていたので、寮長と副寮長

(私)は同じ考えなんだと嬉しく思いました。この言葉もあり、児童主体ではありますが、自分だけではなく他職員と児童みんなで創る…そんな応援合戦にしようとして一人で決心しました。

応援合戦は、各寮五分以内で行います。来賓の方に、毎年審査をしていただいています。審査項目は①「チ

ームワーク」(協力できているか、まとまっているか)、②「アイデア」(入退場、隊形や表現の工夫)、③「完成度」(動きがそろっているか)の3つです。毎年閉会式で結果発表があり、それまで児童はドキドキしながら結果を待っています。他寮もすばらしいパフォーマンスを毎年しているのですが、寮生だけではなく、大人である私もハラハラしています。また、審査をして下さっている来賓の皆様や関係者の皆様の席からは、毎年拍手や応援、また感動をして涙を流している方もいらっしゃいます。

運動会という場所で、児童の頑張りを受け止めて下さり感謝しています。

さて、夏休み明けのある土曜日。まずは、寮生へ審査項目の説明をし、去年のすみれ寮の演技を見せました。去年の演技は、フレフレコールと、初めて挑戦したフラッグパフォーマンス。それを見て、児童は、「すごい！私たちもこれしたいです！」「と言う児童。画面越しですが、感動して涙する児童もいました。エール交換では、フレフレコールや、三三七拍子など、大きな声を出すものもいいよね、と児童が話し始めました。そこで、チアリーディングに決まり

ました。これから練習が始まります。

ここからが、裏方の出番です。児童が決めた出し物を一から作らなければいけません。まずは、選曲。たくさんの案が出ましたが、こちらも女子力が出そうな曲で、明るく快活な曲を職員が探し、「じよいふる」に決定。フラッグパフォーマンスは、児童からの案もあり、「WAになって踊ろう」に決定。それが終わると振り付け、隊形づくり、フラッグ作り、それから練習も始まります。担当者は経験者ではないので、動画を見ながら三人の職員が担当をし、ダンスを作りました。ダンスの指導では、時には一緒に踊り、大きな声を出しました。他にも、フラッグ作り、音源作り、衣装の確認、計画表作り、ダンスのアドバイスなど、児童主体にできるように職員全員が裏方になって動きます。また、夕会では、「見に来てくださっている方へ感謝を届けよう」「一生懸命やって最後にやってよかったと思えるように」との職員の話もありました。

児童の練習は、順調にいくかと言えば、そうではありません。実行委員として選出された児童にも、実行委員ではない児童にも思いがあります。今思うと、入所前に一生懸命に

物事に取り組んでいなかった児童もいたようです。そんな児童も、みなで良いものを完成させたいという思いで取り組みました。大きな声が出せずに照れ隠しで笑ってしまう児童、自分ではできていると思っても振りや声が小さい児童もいました。そんな中、児童たちは職員からのアドバイスを聞いたり、自分の思いを職員に伝えたりして、自分自身の苛々をコントロールしていました。時には他寮の職員も関わって、支援をしたこともありました。

本番になりました。「すみれ〜！お〜！」すみれ寮の演技が始まりました。みんな、普段の練習通りのパフォーマンスでした。今年も審査員席から、拍手や涙も見られました。終わった後に、児童全員に笑顔も見られました。

運動会以外でも、広島学園では、様々な場面で一生懸命取り組める場所があります。例えば、授業を集中して受けること、部活動で大きな声を出すこと、小テストでは事前勉強をして合格すること等々、まだまだたくさんあります。「一生懸命に頑張る」ことは、決して恥ずかしいことではなく、素晴らしいことであり、児童にはできることを一つずつ増や

していつて欲しいと思います。そのために、自分自身が自分の寮の児童ですが、他寮の児童にも支援をしていきたいです。今回の「一つのことをやり切ること、頑張ること」は、退園した後でも他の場面で生かせると思っています。学んだことを生かして、児童たちが将来活躍することを期待しています。

学園行事

◆花の植付

例年四月に、更生保護女性会の方と交流をしながら、プランターへ花の苗を植え付けています。

今年は新型コロナウイルス感染症対策のため、花の苗などを更生保護女性会の方に

準備して頂き、総合の時間の取り組みとして、体験学習をしました。中庭に

「HAPPY」とプランターを並べ、登校時には、日々

成長する花々から元気をもらって勉強に励んでいます。



んが、広島縮景園での梅の実収穫体験をするときに、広島学園の児童が交流を兼ねて収穫の支援をしています。その事前学習として、東広島市社会福祉協議会あつたか応援センターの方から、視覚障害がある人への支援の在り方や、思いやりについて考え、行動するためにアイマスク体験と視覚障害について学んでいます。そして、学園内の梅の実を収穫するときは、どのような支援をするのがよいのかを視覚障害者の立場と支援者の立場になって体験し、より良い支援を考えてから縮景園での交流を迎えています。



しました。目が不自由な人は、白杖や盲導犬、点字ブロックなどを頼りに生活をしている、ということも知りました。白杖について初めて知ったことは、白杖を少し高く上げると「SOS」だということです。講師の先生からは、一人で声をかけるのは勇気が必要だと思うから、周りにいる大人に声をかけて、困っている人に声をかけるとよい、というアドバイスがあつたので、これからの生活でも声をかけにくい時があつたら、周りに助けを求められるようにしていこうと思いました。点字ブロックには、縦長のブロックが進めで、丸い点々のものが止まれという意味が図柄にあることを初めて知りました。今までは、点字ブロックを見慣れていたのですが、意味があることを意識したことがありませんでした。これからの生活では、他の人の気持ちを考えながら行動できる人になれるように、沢山のことを知っていこうと思います。

◆アイマスク体験

中卒 女子

私は、アイマスク体験をして、目が不自由な人の気持ちを少し知ることができました。また、私は目が見えないと聞くと、真っ暗で何も感じられないと思っていただけで、人によってもさまざまで、色や光が感じられる人がいる、ということを知り

◆AED及び心肺蘇生法講習会

小五 男子

今日、東広島消防署西分署の方から、心肺蘇生のやり方について教わ



りました。最初に助けを呼ぶときは、恐れるのではなく、一歩踏み出し、倒れている人を必ず助けるのだ、という気持ちを持ちます。人工呼吸をしたり、AEDを持ってきてもらったりして、命を助ける体験ができました。大切なお母さんが、倒れたときには、正しく心臓マッサージをしていこうと思いました。

何よりも、助けを呼ぶことが、特に大切だということが分かりました。

◆薬物乱用防止教室

中二 女子



薬物乱用防止教室で、私が一番印象に残ったのは、自分の判断で薬の量を変えることをしてはいけないということでした。私は、今まで何回も薬を飲んでいたので、ずっと飲んだり飲まなかったりを繰り返していました。今まで何回も「薬をやめることはダメ」と言われてきて、ずっと「何でなんだろう?」と、思っていました。今日の講演を聞いて、初めてその理由を知ることができました。だから、これからの生活の中では、毎日飲むことを大切にしていこうと思います。次に、薬物は一度しただけで薬物を使用しない



と生きていけないということでした。私は、今まで「一・二回くらいなら大丈夫」ということしか考えていなかったから印象に残りました。また、正しい薬でも間違った使用をすると薬物乱用になるということでした。私は今回のことをとおして大切なことをたくさん学ぶことができました。だから、これからの生活の中で誘われることがあったら、きちんと断れるように、四つの方法を覚えておき、いつでも「薬物乱用はダメ。ゼッタイ!」のキーワードが出てくるように生活していきたいと思っています。



◆中国地区少年野球親善試合

今年度は、新型コロナウイルスの影響で中国地区少年野球大会が中止となりました。そこで、中国少年野球大会の代替えとして、感染予防対策を最優先する中で、特別に親善試合（各県二試合）が、八月二十四日（月）に広島学園で開催されました。

（練習試合の結果）

第一試合 対岡山県 二対一
第二試合 対鳥取県 五対二



中三 男子

僕は、親善試合に参加しました。新型コロナウイルスによって、中国大会と共に全国大会も無くなりました。しかし、園長先生をはじめ多くの方が、僕達の力を発揮する場を作ってくれた、という考えから親善試合が広島学園で行われました。そのため、会場準備のためにテントを張ったり、草を抜いたり、ネットを用意したりしました。先生に色々な準備を手伝ってもらったので、感謝しています。親善試合では、今まで行った全てを出すことができました。毎日、とても暑い中での練習では、三十分ごとの休憩が必要でした。休日には、先生方との練習試合も行いました。色々手助けしてくださる先生方へのお礼として返すことができました。方法は、「結果を出す!」ということです。学んできたことであつたり、教えて下さったことであつたりを試合で発揮することでした。そんな思いがあつたから、しっかりと、今までの練習を活かして試合を行うことができました。守備では、残念にもキャッチャーをすることができなかつたけれど、ファーストをしつかりとやり切ることができました。ファーストの仕事としては、ボールを捕球して一塁でアウトにすること

が、全ての中で最も大切になってきます。ボールがそれでも、止めることができました。ピッチャーがどんなに速い球を投げて、ストライクが入らなければ塁には出れます。また、ボールをよく見なければ、遠くに外れた球でも振ってしまうし、甘い球でも当たりません。「いつも、よくボールを見ろ!」と言われてるので、意識しながらバッターボックスに立つことができました。そして、試合の中で頑張ったことは応援です。いつもより大きな声で応援することができました。ピッチャーの球がボールのときは、「頑張れ!」と励まし、バッターボックスに入ったら選手にも「ボールをよく見て!」と、声を掛けました。「流れは自分たちにある」と、常に信じました。そのかいがあつて、岡山には二対一で勝ちました。試合の合間に休憩があり、二試合目のアップの時に「気が抜けている」と注意され、気持ちを切り替えて鳥取と試合をすると、五対二で勝つことができました。親善試合は、二戦二勝で終わることができました。それは、今までの成果を生かし、仲間を信じたからだだと思います。しっかりとこれからも、仲間を信じる大切さ



を忘れずに、生活をしていきます。

◆第一回 進路講演会

「働く意味について考えよう」

株式会社オーエイプロト

営業部 小鷹狩 様

*皆さんに伝えたいこと

「将来どんな仕事についてたとしてもまず真剣に取り組むことを心掛けて下さい。そうすればその先に『自分がやりたいこと、好きなこと』が、きつと見つかるはずです。」



中一男子

進路講演会での話を聞いて、僕が働くことへのイメージが一変しました。僕は、働くことは自分の欲を満たすため、ただ生きていくためと思っていたのですが、現在は、誰かのためであったり、「ありがとう」の一言や自分のやりがいを持つために働きたいと思っています。そして仕事の話の話を聞いていると、仕事だけではなく、日々の生活や対人関係でも役立つと思えることがありました。だから今日の話を忘れずに、常々心掛けていきたいと思いました。今日は、本当に貴重な体験をさせてもらいました。今日の話は、いつまでも

心の中に持ち続け、意味のある思い出として覚えておきます。

◆ふれあい運動会

中二女子



運動会は、すごく緊張して大変でした。練習通りにすればいいのに、人が多くて緊張しすぎて、行進の時に上手に手が上がらなくて、すごく困りました。でも途中から、自分だけが緊張してるんじゃないかと、みんな緊張してるんじゃないかと、少し安心しました。トロフィーの返還の時、大きな声で返事をするのを頑張りました。頑張ったけど、まだだだと思いました。もっと大きな声で、返事ができるようにしたいと思いました。寮別対抗の応援合戦の時には、始まる前からすごく泣きそうになりました。失敗したら、今までの練習が台無しになってしまったと思う、すごく怖かったです。みんなと運動会前日まで頑張ってきた練習や、ポンポン作りや、旗パフォーマンズのソロパートの振り付けや、音楽をどれにするかなど、色々と頑張ったみんなで決めました。当日は、すみれ寮の全員で運動会に参加することができ、とても嬉しかったです。「応援合戦で絶対優勝する」を目標

に頑張った練習し、時には不安定になつてすごくギシギシしている時もあったら、みんな笑顔で練習できたこともありました。本番の応援合戦では、自分の一番良い笑顔でダンスをして、一番大きな声で言葉を言つて、自分の精一杯を出し切りました。言葉と言う時に泣きそうになったけど、最後まで我慢しました。一人、一人、すごく頑張っていたので、みんなすごいと思いました。失敗をすれば、いつか成功は来るんだ、と思いました。練習で頑張ったから、本番ですごく良いものができたんだ、と思いました。きつくて大変だった練習だったからこそ、本番でちゃんとできて終わった時に、「頑張った」と思えたんだと思いました。他寮も負けたくないから、すごく頑張っていて、みんな負けたくない気持ち、みんながすごくあって、



目はとても大変でした。みんな同じで、体力がないのに最後まで頑張っていて、「すごいな」と思いました。みんなと頑張った、最後までやり抜くことができて、とってもよかった、と思いました。運動会は、悔いなく終わりました。みんなと運動会に出て、みんな悔いがないのが、一番良いものになるんだろな、と思いました。今日は、運動会に参加したみんな、楽しく笑顔で最後までできたのが良かったです。今日の運動会は、とても良い思い出になったし、すごく楽しかったし、とっても嬉しかったです。寮生と先生と会場に来てくれた人達のおかげで、良い運動会になりました。ありがとうございました。文化活動発表会は、もっと大変だと思うので、頑張っていこうと思います。



《ホームページ》

広島県のホームページの中に、「県立広島学園」のページがあります。支援者の方との交流や学園の行事の様子などを掲載していますので、ぜひ、ご覧下さい。

(<https://www.pref.hiroshima.jp/sis/hiroshimagakuen/>)